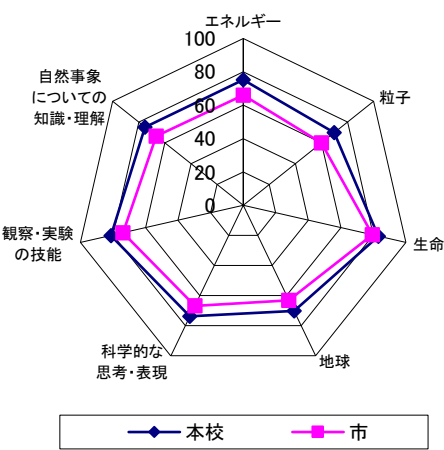


宇都宮市立星が丘中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	75.2	66.1	56.4
	粒子	69.8	60.0	57.4
	生命	83.1	79.4	75.2
	地球	70.2	63.1	49.4
観点別	科学的な思考・表現	73.8	66.8	57.2
	観察・実験の技能	81.3	73.8	69.4
	自然事象についての知識・理解	75.2	66.6	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○領域の平均正答率は、市の平均を9.1ポイント上回っており、全ての項目について、市の正答率を上回っている。 ●テープの読み取りや実験条件の変更についての問題などには不十分どころが見られる。	・基礎的・基本的な内容に関しては十分に身に付いているので、発展的な内容を身に付けさせるためにグラフの作成や実験結果の考察など、考えを深める内容が必要になってくると考える。 ・授業において、個人で考えを持つ時間、班などで考えを発展させる時間をしっかりと確保していきたい。
粒子	○領域の平均正答率は、市の平均を9.8ポイント上回っている。 ○銅イオンのでき方の問題では、市の平均を20.7ポイント上回っており、理解ができている。 ●グラフの見取りや実験操作についての問題で正答率がやや低くなっている。	・理科でのグラフや計算式など実用的な使い方を繰り返し実践させていく必要がある。応用が必要となる点も多いが、基本をしっかりと身につけることにも重点を置きたい。 ・実験では、手順を生徒自身に考えさせるなど、操作の意味を主体的に考えさせる取り組みで、観察・実験の技能の定着を図る。
生命	○領域の平均正答率は、市の平均を3.7ポイント上回っている。 ○基本的な正答率は7～9割と、よく理解ができている。覚えるべき内容はしっかりと身につけることができていることが窺える。 ●裸子植物と被子植物の胚珠のつくりのちがいの問題は正答率が6割台で、他と比べて低くなっている。	・生命分野においては、全般的に正答率が高く、覚えるべき内容は身に付いていることが窺える。この点においては、今後も繰り返し演習問題などで習熟を図りたい。被子植物と裸子植物の違いをはじめ、植物のつくりについては実物を用いて個人が違いを実感できるよう観察を重点的に行い、知識としての定着を図りたい。
地球	○領域の平均正答率は、市の平均を7.1ポイント上回っている。 ●地層、気象ともに、各問の正答率はすべて市の平均を上回っているが、8割未満であり、やや定着不足が見て取れる。	・地層、天気図ともに資料から必要な情報を読み取り、それを基に考えを導き出すという作業に難がある。知識の習得という点では、非常に優秀であるが、活用という点では課題が残る。時間をかけて資料の読み取りに慣れさせ、活用なども積極的に取り入れることで、思考力と活学力の向上を図りたい。